

## 優秀賞

ぼくに何ができるのか

上市来小学校 四年 米ざわティミラしえ南

ぼくは、体の不自由な人の三つの体験をしました。

一つ目は、足の不自由な人が使う車いすの体験です。はじめ、友達に乗った車いすをおしました。ふつうにおしているのに、乗っている友達に、

「速い。」

と、言われました。ぼくは、いつも歩く速さでおしているのになど不思議に思いました。次は友達と交代です。ぼくが車いすに乗る番です。おしてもらうのは楽だろうと思っていただけ、とても速く感じて「こわい。」と思いました。乗ってみて初めて、ふつうに歩くスピードって、車いすだと「あぶなくてこわい。」とを感じるんだなと分かりました。

二つ目は、目の不自由な人の体験です。まず、特別な用紙に点を打って、点字を作ってみました。書くことも大変でしたが、これを覚えて指で感じ取るのはむずかしいだろうなと思いました。次にアイマスクをつけて、白いつえで歩く体験です。まず、歩くコースのかくにんをしたら、一分ぐらいで歩けるコースでした。いざ、アイマスクをつけてみると、何も見えなくなりました。ペアの友達にゆうどうされるけど、どんなところを歩いているのか、まっすぐなのか分からず、とても不安でした。とても時間が長く感じられました。ゆうどうされているとき、友達が近くにいてくれるだけで、少し安心して歩きました。

三つめは、デフサッカー日本代表のかんとくさんとの体験です。耳の聞こえない人へのジェスチャーなど、どんな工夫をして伝えたいことを伝えていくかのお話を聞いたり、ジェスチャーをしたりしました。また、体が不自由だけど、一生けん命がんばってプレイしていることも知りました。

ぼくは、この三つのたいけんをして思ったことがあります。体の不自由な人たちは、たいへんなことも多いかもしれないけれど、一生けん命で、なやみがあったりお勉強をがんばったりして、ぼくたちと一しょなんだ。だからぼくは、体の不自由な人を見かけたら、やさしく声をかけて、ぼくにできることはしていきたいと思いました。

白いつえを持った人がいれば、びっくりされないように声をかけて、ひっぱっていくのではなく、行きたい方向へぼくのひじをもってもらってゆっくり歩こうと思います。

車いすに乗った人と出会ったときには、ふつうの速さでおすのではなく、ゆっくりと、どんどんというショックもないようにやさしくおしたいです。

耳の不自由な人と出会ったら、できるだけ大きなジェスチャーでぼくの思いを伝えたいと思います。できれば、手話も勉強したいです。

ぼくにできることは、進んで行って、ぼくの知らないことや考えられないことなどを体の不自由な人たちからいっぱい教えてもらいたいと思います。そうすれば、みんなが一しょにみんなしあわせになるんだと思います。

